

生殖看護における Good Practice ～認定看護師の活動評価～

坂上明子、森明子、清水清美

上澤悦子、小松原千暁



不妊症看護認定看護師および生殖看護認定看護師（両者を合わせて、以下、生殖 CN）は、生殖看護（不妊治療）分野における専門性の高い知識と臨床推論力、病態判断力、高い倫理観に基づき、性と生殖機能・障害のリスク因子による妊孕性の評価や、生殖補助医療の検査期・治療期・終結期の意思決定支援、がん治療等の妊孕性生殖温存時のケアを行うことを目指している。

2022 年より不妊治療の検査・治療費は保険適用となったことにより、生殖補助医療を受けるカップルはさらに増加した。一方、年齢制限のある保険適用により、治療終了を考える患者への支援が増える等、仕事内容に変化が生じていると考える。また、治療と仕事が両立できるよう支援していくことは喫緊の課題である。加えて、子ども家庭庁は 2025 年 5 月、プレコンセプションケア推進 5 か年計画を発表し、プレコンセプションケアに関する専門的な相談支援体制の強化を打ち出しており、それらも生殖 CN の役割として求められている。

そこで、社会の変化や不妊カップルのニーズの多様化に合わせて、生殖 CN が活動の幅を広げ、より質の高い看護を展開していくため、生殖 CN の看護活動の自己評価と、

共に働く看護管理者や医師、エンブリオロジスト（胚培養士）等の同僚からの他者評価を行い、さらに、生殖 CN が実践している Good Practice を集約することを目的に調査を行った。

グーグルフォームを用いて質問票調査を行った。質問票の分析の結果、27.3%の生殖 CN は「認定看護師として大いにその機能を発揮している」と評価していたが、医師等の同僚は 63.6%、看護管理者は 80.0%が「大いに発揮している」と評価していた。生殖 CN は、【実践活動】として、「初診時の相談」「検査・治療説明」「治療開始・ステップアップの意思決定支援」に対する自信は高かったが、「流産時のケア」「配偶子提供」「がん生殖相談」「プレコンセプションケア」「妊娠後のケア」はやや自信が低かった。医師等の同僚は、自施設に生殖 CN がいることで「看護スタッフ全体の不妊治療・看護に関する知識や技術が向上する」や「患者カップル・利用者のニーズを的確につかみ、相談・対応、意思決定支援の質が向上する」について、9割以上が評価していた。その一方、生殖 CN は、「患者カップル・利用者のニーズを的確につかみ、相談・対応、意思決定支援の質が向上する」と自己評価しているのは、66.7%と有意に低かった。全般的に、看護管理者や医師等の同僚は、生殖 CN 自身の自己評価よりも生殖 CN の活動を高く評価していた。

今後は、生殖 CN の Good Practice の具体的内容についても分析を進めていく。